

北見工業大学学報

第 242 号 (2010 年 11 月号)

目 次

入 学 式	平成 22 年度秋季大学院入学式举行……………	2
研 究 助 成	平成 22 年度共同研究の受入状況……………	3
	平成 22 年度受託研究の受入状況……………	3
	平成 22 年度奨学寄附金の受入状況……………	4
	京都市・山本文次郎漆科学研究助成採択決定……………	4
人 事	人事異動……………	5
受 賞	未利用エネルギー研究センター、八久保晶弘准教授が 2010 年度日本雪氷 学会平田賞を受賞……………	6
諸 報	ISO14001 定期維持審査を実施……………	7
	地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を美幌町で開催……………	8
	父母懇談会(秋季・北見、大阪、盛岡)を開催……………	9
	防災訓練を実施……………	10
	大学院進学説明会を開催……………	11
	屈斜路研修所において消防訓練を実施……………	12
	平成 22 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式を举行……………	13
日 誌	10・11 月……………	14

= 入学式 =

平成 22 年度秋季大学院入学式を挙行

(総務課)

平成 22 年度秋季大学院入学式が 10 月 1 日 (金) 午前 10 時から、本学第 2 会議室で行われました。

学長から留学生並びに社会人を含む 6

人の入学が許可された後、学長式辞、役員等との紹介が行われました。

入学者は下表のとおりです。

大学院博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
機能材料工学専攻	1

大学院博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
生産基盤工学専攻	1
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3
医療工学専攻	1



式辞を述べる鮎田学長



入学が許可された新入生

= 研究助成 =

平成22年度共同研究の受入状況

平成22年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
マテリアル工学科	教授	青木清	非Pd系水素分離・精製合金の研究開発	新日本石油(株)研究開発本部 中央技術研究所
情報システム工学科	教授	三浦則明	新しい上空波面推定法の開発と太陽観測による検証	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構
機械工学科	教授	羽二生博之	GPS誘導空撮システムの自動制御に関する研究	(株)エクサ設計
地域共同研究センター	教授	有田敏彦	ポリマーがいしの塩分付着特性に関する研究	東北電力(株)研究開発センター
社会環境工学科	教授	榎本浩之	Polar Cryospheric Monitoring related Global Environmental Change using GCOM-WAMSR2	(独)宇宙航空研究開発機構
電気電子工学科	教授	柏達也	偏波面制御ならびに経時的物性値に即応した高効率マイクロ波加熱方式の開発	(独)日本原子力研究開発機構
地域共同研究センター	教授	有田敏彦	運材車(フォワード)の安全対策に関する調査研究	(株)福地工業
電気電子工学科	准教授	菅原宣義	極寒冷地における各種がいしの着氷雪条件下での絶縁特性に関する調査研究及び技術指導	日本碍子(株)電力技術研究所
自然エネルギー実験室	准教授	三木康臣	太陽熱利用機器の高度利用について	道東ネイチャーテック倶楽部
マテリアル工学科	教授	青木清	液体急冷Nb-TiNi系複相水素透過合金箔を用いた水素精製システムの開発	岩谷瓦斯株式会社
情報システム工学科	准教授	榎井文人	日本語文書分析手法の研究	株式会社カンテック
情報システム工学科	講師	後藤文太郎	Webブランディング及びICTコスト削減を考慮したオホーツクブランド公式サイト構築	財団法人オホーツク地域振興機構
バイオ環境化学科	准教授	岡崎文保	メタン直接改質による水素製造に関する研究	北海道ガス株式会社 技術開発研究所
マテリアル工学科	准教授	宇都正幸	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性評価	ホクレン包材株式会社

平成22年度累計70件

平成22年度受託研究の受入状況

平成22年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職名	研究担当者	研究題目及び研究期間	委託機関	所要経費
					円
社会環境工学科	教授	中山恵介	超濁度水発生機構の解明と防止に向けた現地試験および現場での採泥分析を用いた土砂輸送に関する研究	網走開発建設部	2,021,000
電気電子工学科	准教授	武山真弓	低コスト薄膜太陽電池用SiおよびSiNx薄膜の革新的低温作製技術の開発	独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構	2,487,000

平成22年度累計12件

平成22年度奨学寄附金受入状況

平成22年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職名	研究者	寄 附 目 的	寄附者	寄附金額
					円
電気電子工学科	教授	田村淳二	風力発電出力変動に伴う電力系統への影響低減策に関する研究	北海道電力(株)	1,000,000
社会環境工学科	准教授	高橋清	工学研究のため	(株)ドーコン	300,000
社会環境工学科	教授	中山恵介	釧路川における塩水遡上に関する研究遂行のため	(株)福田水文センター	100,000
	学長	鮎田耕一	創立50周年記念事業の助成	北見工業大学 IWMST2010実行委員会	464,000
機械工学科	准教授	渡辺美知子	機械工学の研究	(有)ビーインフォー	100,000
バイオ環境化学科	教授	吉田孝	漆科学研究者の育成のための助成、海外からの留学生への助成	京都市・山本文二郎 漆科学研究助成事業 委員会	200,000
	学長	鮎田耕一	学生の進路指導、大学説明会等の事業を推進するため	北見工業大学学生後援会	2,000,000
社会環境工学科	准教授	伊藤陽司	大規模地すべり及び排水路底部変状に関する実験的研究のため	株式会社 中神 土木設計事務所	500,000
技術部	室長	岡田包儀	劣化コンクリートの省力化強度測定手法の開発及び検討	日東建設 株式会社	300,000
社会環境工学科	准教授	亀田貴雄	雪氷学分野の研究奨励	株式会社 清月	24,384
社会環境工学科	助教	中村大	工学研究のため	(有) シー・エス・ プランニング	250,000

平成22年度累計47件

京都市・山本文二郎漆科学研究助成 採択決定

(研究協力課)

所 属	職名	氏名	研 究 課 題	交付金額
バイオ環境化学科	教授	吉田孝	漆研究者育成および次世代のポリマー材料、塗料として重要な漆資源の保護に貢献できる研究開発	200千円

= 人事 =

人事異動

(総務課)

○大学発令

発令 年月日	現職名	氏名	異動内容
22. 9. 30	総務課長	新田 義純	辞職（鳴門教育大学へ転出）
22. 10. 1	工学部助教	前田 康成	工学部准教授
”	（新規採用）	佐藤 慎悟	工学部助教
”	研究協力課長	谷川 敦	総務課長
”	放送大学学園総務部総務課課長補佐	高橋 敏	研究協力課長



= 受賞 =

未利用エネルギー研究センター、八久保晶弘准教授が 2010 年度日本雪氷学会平田賞を受賞

(未利用エネルギー研究センター)

このたび、本学未利用エネルギー研究センター准教授の八久保晶弘先生が、社団法人日本雪氷学会より 2010 年度平田賞（学会賞）を受賞されました。

日本雪氷学会は、雪氷学についての発表・知識の交換・情報の提供ならびに国内・国外の関係学会との協力によって、雪氷学の進歩を図り、学術の振興に寄与することを目的として設立された学会です。寒冷地工学を特色の一つとする本学においては、10 名を越える正会員が日本雪氷学会に所属しています。平田賞は、「雪氷学の研究に顕著な成果をあげ、今後の発展を奨励することが適当と考えられる」正会員に与えられる学会賞です。今回は、八久保准教授の「天然ガスハイドレートの解離熱測定および安定同位体解析」が平田賞に選出されました。

この研究は、次世代のエネルギー資源として、また温室効果ガスの貯蔵庫としても注目される天然ガスハイドレートについて、その解離熱を測定し、さらにゲストガスの安定同位体比を調べたものです。ガスハイドレートは氷と同様、生成・分解過程で大きな潜熱のやりとりを必要とします。しかしながら、低温高圧下で安定なガスハイドレート結晶の解離熱測定は困難が多く、特に天然にみられるような混合ガス系での報告例はほとんどありませんでした。

本研究では、ロシア・バイカル湖で発



日本雪氷学会平田賞賞状

見されたメタン・エタン混合ガスハイドレートに焦点をあて、熱量計を用いた混合ガス系解離熱の直接測定に初めて成功し、数年にわたるセンターの野外調査で得られた貴重な天然結晶についても測定されました。加えて、天然ガスハイドレートを分解させたガスの炭素・水素安定同位体を分析することにより、ガス生成起源と生成経路が明らかにされ、オホーツク海サハリン沖とバイカル湖のガスハイドレート中のメタンは両方とも微生物起源でありながら、生成経路が異なることが示されました。また、ガスハイドレート結晶が生成する際に、ごく僅かな割合で軽いメタンが結晶に取り込まれやすい傾向（ゲストガスの同位体分別）が初めて発見され、このことからバイカル湖のガスハイドレートに関する生成モデルが提案されています。これらの知見は、海底・湖底の表層堆積物中のガスハイドレート生成モデル構築につながり、生成過程を知る手がかりとなることから、今後の発展が期待される研究として日本雪氷学会に認められ、受賞されたものです。

ISO14001 定期維持審査を実施

(施設課)

9月28日(火)、29日(水)の2日間にわたり国際的環境マネジメントシステム規格「ISO14001」の定期維持審査が実施されました。

学長へのトップインタビューを含む8つの部門を審査の対象として審査登録機関である(財)日本規格協会の長田審査員より現場確認や構成員へのヒアリング等が行われました。審査は本学における「工学の教育・研究及び社会貢献活動並びにこれらを支える管理運営活動」を中心とした環境マネジメントシステムの運用状況について行われ、審査対象となった各部門では自部門の活動について資料

等を交えて説明を行いました。

審査結果として、シンボル及びロゴマークを使う際の登録範囲表記について指摘を受けたものの、「環境に関する科目の増加」や「環境目的目標を前年よりも高く設定し計画的改善を図っている」事が評価されました。また、内部監査の実施体制についても「有効に機能している」と評価を受けました。

これらの審査結果は日本規格協会の環境マネジメントシステム判定委員会で審議され、平成22年10月25日付けでISO14001の「登録継続」が承認されました。



実験室でヒアリングを行う長田審査員(右)



審査の様子



現場確認の様子



終了会議での総括

地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を 美幌町で開催

(研究協力課)

平成22年10月4日(月)に、本年度第1回目となる地域共同研究センター産学官連携推進員・協力員合同会議を美幌町保健福祉総合センター「しゃきっとプラザ」で開催しました。

本会議は、平成16年度からオホーツク圏を3ブロックに分けて斜網地区、遠紋地区、北見地区で開催しており、北海道、特にオホーツク地域の経済発展を目指し、周辺自治体・公設試験場・包括連携協定締結機関

等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」を委嘱し、産学官連携に関する協議・情報交換会を実施し、地域経済の振興を目的に活動を続けています。

第1回目となる本会議には、自治体から6名、金融機関から4名、公的機関から12名、周辺大学から2名、本学関係者8名の総勢32名の出席がありました。

今後は、第2回目を12月に湧別町で開催、第3回目を北見で開催する予定です。



会議の様子

父母懇談会（秋季・北見、大阪、盛岡）を開催

（学生支援課）

例年開催している「父母懇談会（秋季）」を、北見会場は10月9日（土）本学講堂、大阪会場は10月23日（土）大阪府私学教育文化会館、盛岡会場は11月13日（土）マリオスを会場としてそれぞれ実施しました。

北見会場には、100組127名の父母が参加し、全体説明会において鮎田学長から挨拶があった後、田牧副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がありました。また、学生後援会会長からは、当会の活動状況が報告されました。その後、各学科・専攻に分かれた個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは修学状況、就職等について質問が出され熱心なやりとりが交わされました。また、会場前においては、大学認定商品の菓子「雪まりも」の他、大学関連グッズの販売を行い、参加した父母からは大変好評を得ています。

大阪会場には、71組94名の父母が参

加し、全体説明会において、田牧副学長からは「本学の教育及び就職状況等」について説明がありました。また、同窓会関西支部長から同窓会の活動状況が報告されました。

盛岡会場には、54組69名の父母が参加し、全体説明会において田牧副学長からの説明がありました。また、同窓会東北支部長から活動状況が報告されました。

大阪、盛岡いずれの会場とも、各学科・専攻に分かれた個別面談では、各学科の教員が対応し、父母からは修学状況、就職等について質問が出され熱心にやりとりが交わされました。また、全体説明会の後、個別面談までの待ち時間には、田牧副学長が、父母からの質疑に回答する時間が設けられ、大学生活や生活環境に関する質問、就職や大学院への進学に関する質問など多岐に亘り質疑応答が行われました。



個別面談の様子（大阪）



全体説明会の様子（盛岡）

防災訓練を実施

(施設課)

10月26日(火)、電気電子工学科棟を火元に想定した防災訓練を北見地区消防組合消防署の協力のもと実施しました。

火事の発生から通報・連絡に始まり、初期消火、避難誘導等の訓練を行いました。当日は風が強く、肌寒い天候ではありましたが、参加した約120人の学生・教職員は、はしご車を使った4階屋上からの避難訓練等に真剣に取り組んでいました。その後消防署員の指導の下、学生による屋内消火栓からの放水訓練、消火器の取り扱い訓練を行いました。訓練後、岡田副消防署長から講評をいただき、「初めて泊まる宿泊施設等において万が一の事態に備え、避難経路の確認を必ずする



はしご車による屋上からの避難訓練

こと。また、携帯電話で119番通報する場合は居所を正確に伝えられるよう心がけること」等、防災全般にわたる注意喚起がありました。



仮想負傷者の救護



消火器の取り扱い訓練

大学院進学説明会を開催

(入 試 課)

平成 22 年 10 月 27 日 (木) に大学院進学説明会を開催しました。

就職支援室長の柴野教授より大学院の就職状況等を参考にした、大学院進学の意味についての説明に続き、大学院入試の出願資格には TOEIC 受験が条件となっているものがある等の説明や、奨学金・授業料免除制度について説明しました。

今回の対象は、大学院の受験を考えている学生全員で、およそ 40 分間の短い説明会でしたが、77 名の出席者が真剣なまなざしで説明に耳を傾けていました。

なお、平成 23 年度大学院入試(第 2 次)は平成 23 年 2 月 7 日～8 日に実施されますので、受験希望者は下記期間中に出願書類を提出して下さい。

出願受付期間：(第 2 次) 平成 23 年 1 月 17 日～21 日 (21 日 17 時必着)



柴野教授による説明



説明に聞き入る参加者たち

屈斜路研修所で消防訓練を実施

(学生支援課)

10月30日(土)、屈斜路研修所において消防訓練を川湯消防署のご協力のもと実施しました。

朝の9時30分の寒い中、30名近くの学生にご協力いただき、火事の発生から通報・連絡に始まり、初期消火、避難誘導等の訓練を行いました。当日は天気が良いにも関わらず肌寒い天候ではありましたが、参加した30人の学生は真剣に取り組んでいました。

その後、川湯消防署員のご指導のもと、水消火器による消火器の取扱い訓練を行いました。訓練後、署員の方から講評をいただき、その際「研修所のような初めて泊まる宿泊所では、まず避難経路を確認しましょう」等のホテル等の宿泊所に



(訓練の様子)

泊まった際の注意喚起があり参考になりました。訓練で学んだことを忘れず初めて泊まるホテル等ではまず避難経路を確認して欲しいと思います。



平成 22 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式を挙

(企画広報課)

11 月 22 日 (月)、午後 5 時から平成 22 年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式が本学第 1 会議室において行われました。

表彰式では、鮎田学長から永年勤務者表彰被表彰者に対し、表彰状の授与並びに記念品の贈呈を行い、永年にわたる貢献への感謝とお祝いの言葉が贈られまし

た。

また、式終了後の記念撮影に引き続き祝賀会が開催され、思い出話で盛り上がり、午後 6 時和やかなうちに終了しました。

被表彰者は、下表のとおりです。

(50 音順)

北見工業大学永年勤務者表彰

30 年勤務者

氏 名	所 属 学 科 等
斉 藤 靖 子	研究協力課
仲 村 宏 一	電気電子工学科
野 田 高 虎	学生支援課
野 矢 厚	電気電子工学科
久 田 貢	財務課
百 武 欣 二	技術部
宮 越 勝 美	機械工学科

20 年勤務者

氏 名	所 属 学 科 等
宇 都 正 幸	マテリアル工学科
川 島 恵 也	学生支援課
小 林 道 明	機械工学科
鈴 木 範 男	情報システム工学科
芳 賀 和 敏	共通講座
渡 部 孝 弘	学生支援課



= 日誌 =

10 月

- 1 日 秋季大学院入学式、後期授業開始、
学生よろず相談室会議
- 4 日 地域共同研究センター産学官連携推進員
・協力員合同会議
- 9 日 父母懇談会（北見）
- 12 日 役員会
- 13 日 教育研究評議会、就職ガイダンス
- 14 日 図書館委員会
- 19 日 学生委員会
- 20 日 発明審査委員会
- 21 日 教務委員会
- 23 日 父母懇談会（大阪）
- 26 日 防災訓練
- 29 日 就職ガイダンス

11 月

- 1 日 国際交流委員会
- 4 日 教務委員会
- 5 日 就職ガイダンス
- 8 日 役員会
- 10 日 研究科委員会
- 11 日 入学者選抜委員会、推薦入学者選抜実施
委員会、交通安全講習会
- 13 日 父母懇談会（盛岡）
- 17 日 教育研究評議会
- 19 日 学生委員会、入学試験実施委員会
- 22 日 永年勤務者表彰式、学生支援G P特別
講演会
- 24 日 知的財産セミナー
- 27 日 合同企業セミナー
- 28 日 合同企業セミナー
- 29 日 推薦入学者選抜実施委員会
- 30 日 役員会、研究者向け知財セミナー

